

| | | | | | | | |
|-----|--------|-----|---|----|----|-----|---|
| 科目名 | 人間科学特講 | 担当者 | タナカ 田中 泉 ケンイチロウ 堅 一郎 イズミ リュウタロウ 泉 龍太郎 | 期間 | 通年 | 単位数 | 4 |
|-----|--------|-----|---|----|----|-----|---|

【科目概要】

| | | | |
|--------------|---|------|--|
| 目的 | <p>これから人間科学を学び、人間科学の諸領域の研究を行う際に必要なリテラシー、具体的には研究を行う上で欠かせない研究倫理、文献検索の方法等について理解してもらうことを目的とする。各コースの研究領域で研究実施の際に知っていなければならないことについては、特別研究指導教員が説明する。</p> <p>I. 問題発見・解決力：事象を注意深く観察し、解決策を提案することができる。【A-4:3】</p> <p>II. 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に、論理的な思考、批判的な思考ができる。【A-3:3】</p> <p>III. 倫理観：豊かな知識を基に、倫理観を高めることができる。【A-1:3】</p> | | |
| 到達目標 | <p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>人間科学で研究・論文作成する上で「常識」とされる知識を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間科学を学び、修士論文を作成するまでに必要なリテラシーを理解することができる。具体的には、a) 研究課題を修士論文として纏める際に必要な条件を理解できる、b) 自分の研究課題に関する先行研究を文献検索することができる、c) 研究倫理について、研究を進める上でやってはいけないことを理解でき、修士論文作成に反映できる。 自分の研究領域において研究を進める上で必要な知識を得て、自分の研究課題を具体化することができる。 | | |
| 学修方略 (方法) | <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> レポートの推敲過程において、manaba folio の全受講者用の掲示板機能（「スレッド」）に届いた受講者からの質疑に対して応答し、その過程を受講生全員に公開する。 オープンエデュケーション教材（OER）を基本教材の補助として視聴する。 <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>指定された基本教材、および参考文献を読みこなし、レポートを作成する。それでも理解できない場合は、manaba folio を通して適宜科目担当者に質疑をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 7月中旬に3日間実施されるスクーリング（集中面接授業）に全日程出席することが、単位取得の要件となる。また、レポート課題についてもスクーリング後、指定された期限までにmanaba folio に提出する。なお、補講を実施する場合がある。 <p>【学修時間】</p> <p>在宅学修では、レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする；1) 教材の学修；20時間、2) レポート執筆；10時間、3) レポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）；15時間。</p> | | |
| スケジュール | <p>この講義は、人間科学専攻において研究を進める上で欠かせない内容であり、初年度教育に相当するので、スケジュールの調整がつかざり、初年度に履修すること。</p> <p><通信授業（在宅学習）2単位分：基本教材1> 担当；田中堅一郎</p> <p>前期：できるかぎりスクーリング前までに基本教材1 および参考文献を通読し、スクーリングに備える。基本教材1についてレポート課題を作成し、提出日までに最終稿を提出する。</p> <p><スクーリング 2単位分> 主担当；泉 龍太郎</p> <p>2019年7月13日～15日（9月中旬に補講を実施する場合がある）</p> <p>1) 研究、及び論文作成に必要なリテラシー（担当：専攻主任）</p> <p>①研究・論文作成の概論 ②研究、及び論文作成に求められるもの ③論証あるいは検証の方法 ④研究倫理1 ⑤研究倫理2 ⑥先行研究のレビューとその利用方法 ⑦研究及び論文の進め方</p> <p>2) 人間科学専攻分野における研究基盤としての知識・教養（担当：専攻主任）</p> <p>⑧人間科学Ⅰ ⑨人間科学Ⅱ ⑩人間科学Ⅲ</p> <p>3) 人間科学専攻分野における様々な課題（担当：各科目担当教員）</p> <p>⑪哲学 ⑫教育学 ⑬安全 ⑭医療・健康科学 ⑮スポーツ科学</p> <p>(1) スクーリング・レポート課題1：スクーリング1週間後</p> <p>(2) スクーリング・レポート課題2：スクーリング終了の1か月後</p> | | |
| 成績評価 | 種別 | 割合 | 評価基準 |
| | 通信授業 (在宅学修) | 50 % | <ul style="list-style-type: none"> 最終提出期限内に提出されなかったレポート課題は、(原則的に)ゼロ点となります。 草稿を一度も出さず、提出期限間際にいきなり最終稿を出された場合、そのレポート課題の評価点は69点以下しか得られません。 |
| | スクーリング | 50 % | スクーリングの参加状況（ディスカッションを含む；10%）及びレポート課題1（10%）及びレポート課題2（30%）により評価。 |

| | |
|---------|--|
| 履修者への要望 | <ul style="list-style-type: none"> ・レポート作成にあたっては、教材の引き写しは評価の対象外とします。 ・スクーリング受講前に、基本教材1に必ず目を通して下さい。 ・いずれのレポート課題についても、本文に引用した文献名は、かならず文末の文献リストに掲示してください。 ・レポート課題については、自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねるのではなく、論文の体裁で書いて下さい。 |
|---------|--|

【レポート課題】

| 基本教材 1 | |
|----------|---|
| 教材の概要 | 著者名： 高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一(編著) 教材名： 『人間科学研究法ハンドブック (第2版)』(ナカニシヤ出版, 2011年) ISBN:978-4-77-950419-8 2,800円+税 心理学を中心とした人間科学の研究法について、様々な視点から解説されている。章立ては以下の通り：第1章(研究とは何か)、第2章(データの収集)、第3章(研究の設計と管理)、第4章(人間科学における研究倫理について)、第5章(文献調査の方法)、第6章(メッセージ分析)、第7章(観察法)、第8章(調査的面接法)、第9章(フィールド研究におけるインタビュー)、第10章(質問紙調査法)、第11章(実験法)、第12章(研究論文の書き方1)、第13章(研究論文の書き方2) |
| 参考図書 | 新堀 聡『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』(同文館出版, 2002年) ISBN 978-4-4958-6511-5 1,400円+税 トウラビアン, K. 沼口隆・沼口好雄(訳)『シカゴ・スタイル 研究論文執筆マニュアル』(慶應義塾大学出版会, 2012年) ISBN 978-4766419771 8,000円+税 三浦麻子『なるほど! 心理学研究法(心理学ベーシック第1巻)』(北大路書房, 2017年) ISBN978-4-7628-2966-6 2,200円+税 |
| 履修上のポイント | 参考図書などをもとに、馴染みのない専門用語を確認することが望ましい。 夏期および冬期のスクーリングの講義では、基本教材1についての話題を中心とする予定である。 |
| レポート課題 1 | 基本教材1のうち、第1章、第2章、第4章、第5章、第7章から第11章を要約し、レポートの最後に全体についてのコメントを述べること。 留意点 ：各章を、800字程度を目安に要約し、全体についてのコメントを付記すること(合計7,000字~8,000字程度を目安にすること)。教材の引き写しは評価の対象外とする。 |
| レポート課題 2 | 基本教材1のうち、第1章、第2章、第4章、第5章、第7章から第11章の中から1つの章を選び、その章の内容を自分の興味・関心の高いことがらを中心に、3,000字~4,000字でまとめること。 留意点 ：参考図書もレポート作成の必要に応じて引用すること。自分の興味・関心だけをエッセイのように文章を連ねていくのはご遠慮願います。 |

| 基本教材 2 | |
|----------|--|
| 教材の概要 | 著者名： スクーリングで提示された推薦図書 教材名： |
| 参考図書 | 杉本敏夫『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』(サイエンス社, 2005年) ISBN 978-4-78-191078-9 1,900円+税 山崎茂明『科学者の発表倫理 不正のない論文発表を考える』(丸善, 2013年) ISBN 978-4-621-08654-4 2,600円+税 |
| 履修上のポイント | スクーリング前半においては、①研究及び論文の最低条件を理解し、②研究を進めるための基本的なスキルを身に着ける、とともに③研究及び論文作成のモチベーションを高めるようにする。また、後半においては、各分野に共通する基礎的な課題を学際的に考察して、研究基盤となる知識・教養の習得に努めるようにする。いずれにおいても、事前の準備と講義中の発言及び質問など積極的な姿勢がポイントとなる。 |
| レポート課題 1 | スクーリングの概要を要約し、それについて意見をまとめる。特定の講義を取り上げても構わないが、その場合は先に講義担当教員のレビューを受けること(1,000字~1,500字)。 |
| レポート課題 2 | 各分野の研究手法の講義や基本教材および参考図書、並びにスクーリングでの発表およびディスカッションを踏まえて、 研究計画書 (3,000字から4,000字)をまとめ、指導教員のレビューを受けた上で提出してください。 |